

みんなの
防災ハンドブック

「こまがたけの火山ふんかにそなえて」

HOKKAIDO-KOMAGATAKE

駒ヶ岳

保存版

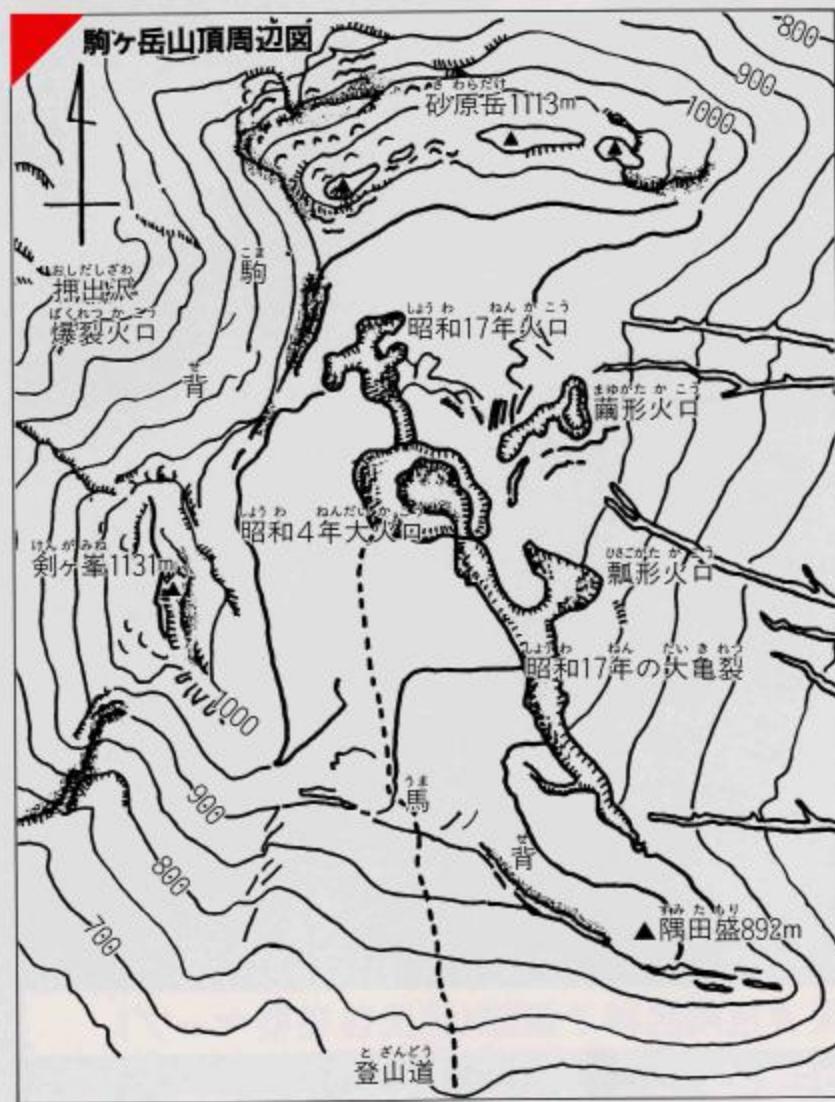
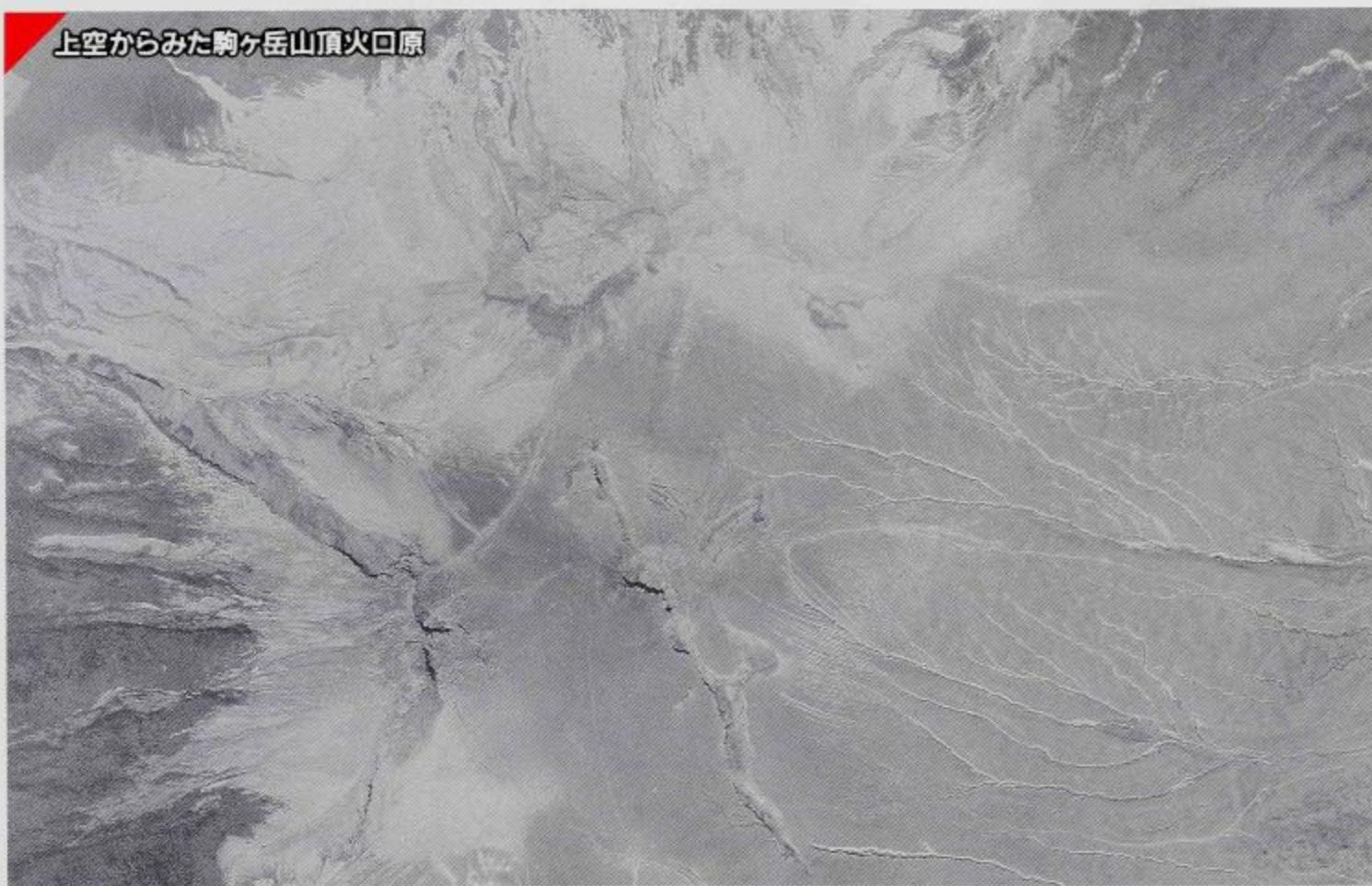
住民啓発型火山噴火災害危険区域予測図(住民啓発型マップ)



駒ヶ岳火山防災会議協議会

森町・砂原町・鹿部町・南茅部町・七飯町

上空からみた駒ヶ岳山頂火口原



駒ヶ岳火山の概要

駒ヶ岳は大沼国定公園内にあり、内浦湾を隔てて有珠山とほぼ南北に相対する安山岩の成層火山である。

頂上には、北壁の砂原岳、西壁の剣ヶ峯、および南側の馬ノ背から隅田盛に囲まれた直徑約2kmの火口原があり、火口原から東に開いた凹地を馬蹄形火口という。

また、剣ヶ峯と砂原岳を結ぶ鞍部(駒ノ背)の北西側は、崩壊により深くえぐられた形状を呈しており、ここは押出沢爆裂火口と呼ばれている。

火口原内は軽石に埋積され比較的平坦で、中央部に直徑約250m、深さ約80mの昭和4年大火口の他数個の火口がある。

昭和17年の噴火では、昭和4年大火口を通る長さ約1.6kmの大亀裂を生じ、その内部や火口壁沿では現在も弱い噴気活動を続けている。

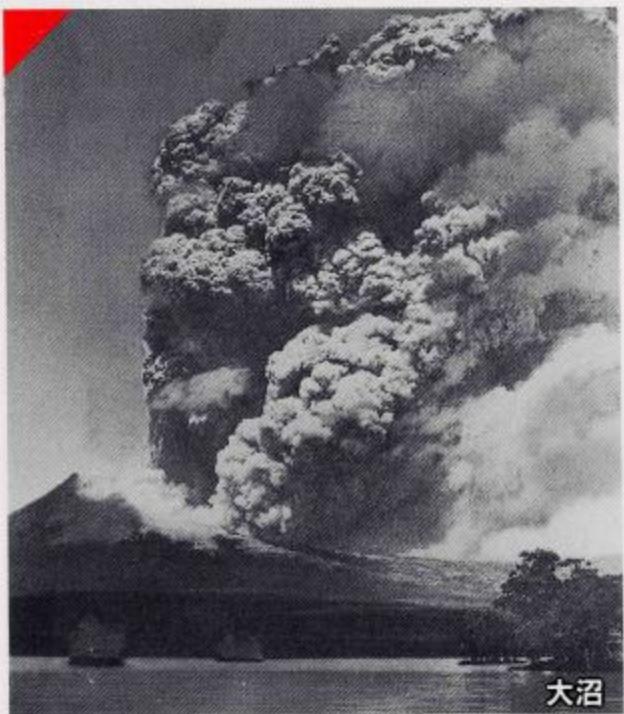
火山噴火の記録

駒ヶ岳は羊蹄山のような円錐形の火山として成長した後、3～4万年前に山頂部を崩壊し、その後もときどき大きな軽石噴火をくりかえしました。このような活動は歴史時代に入っても起きました。江戸時代初期、寛永17年(1640年)の大噴火では、山頂部が崩壊して岩屑なだれを起こしました。この時、大量の岩石が噴火湾になだれ込み、津波を発生させ沿岸住民に700人以上の死者を出しました。岩屑なだれは南山麓にも流れ、大沼・小沼湖付近の景観を特徴づける無数の小丘を作りました。この後も大きな軽石噴火が2、3日続き、山麓に火碎流が流下しました。安政3年(1856年)にも火碎流を伴う激しい軽石大噴火が発生しました。火碎流が南山麓の折戸川をせき止め、留の湯で湯治客に20数人の死者が出ました。噴火で山頂火口内に小さな溶岩ドームが生まれ、小爆発が明治、大正年間に多発しました。昭和に入り、昭和4年(1929年)に、いまなお人々に記録され、語られている大噴火が起こりました。火碎流を伴う大きな軽石噴火で、東山麓の鹿部は厚さ1メートルもの降下軽石で埋まり、家屋・山林・耕地・コンクリート構造物に大きな被害を受け、死者2名を出しました。昭和17年(1942年)の爆発的噴火(中噴火)では、山頂の火口原に延長1.6キロメートルの大亀裂を生じました。

西暦(邦暦)	規模	噴火に伴う前兆現象記録
1640年(寛永17年)	大噴火	山鳴り著し。
1694年(元禄7年)	噴火	記録不明。
1765年(明和2年)	小噴火	記録不明。
1784年(天明4年)	小噴火	記録不明。
1856年(安政3年)	大噴火	2日前から鳴動、数時間前から震動を感じ、少量の降灰あり。
1888年(明治21年)	小噴火	特になし。
1905年(明治38年)	小噴火	2日前から鳴動を感じ、小爆発がおこり2～3日後やや大きな爆発となる。
1919年(大正8年)	小噴火	噴火の前日午後に駒ヶ岳付近で地震及び鳴動あり。
1923年(大正12年)	小噴火	特になし。
1924年(大正13年)	小噴火	約30分前から鳴動あり。
1929年(昭和4年)	大噴火	2～3日前から鳴動、10～13時間前に地震あり小爆発にいたる。小爆発開始後9時間30分で大噴火が始まる。
1937年(昭和12年)	小噴火	2日前からときどき鳴動や少量の降灰があり。
1942年(昭和17年)	中噴火	4～5日前にドーンという音響を聞く。30分前に小地震を記録する



森



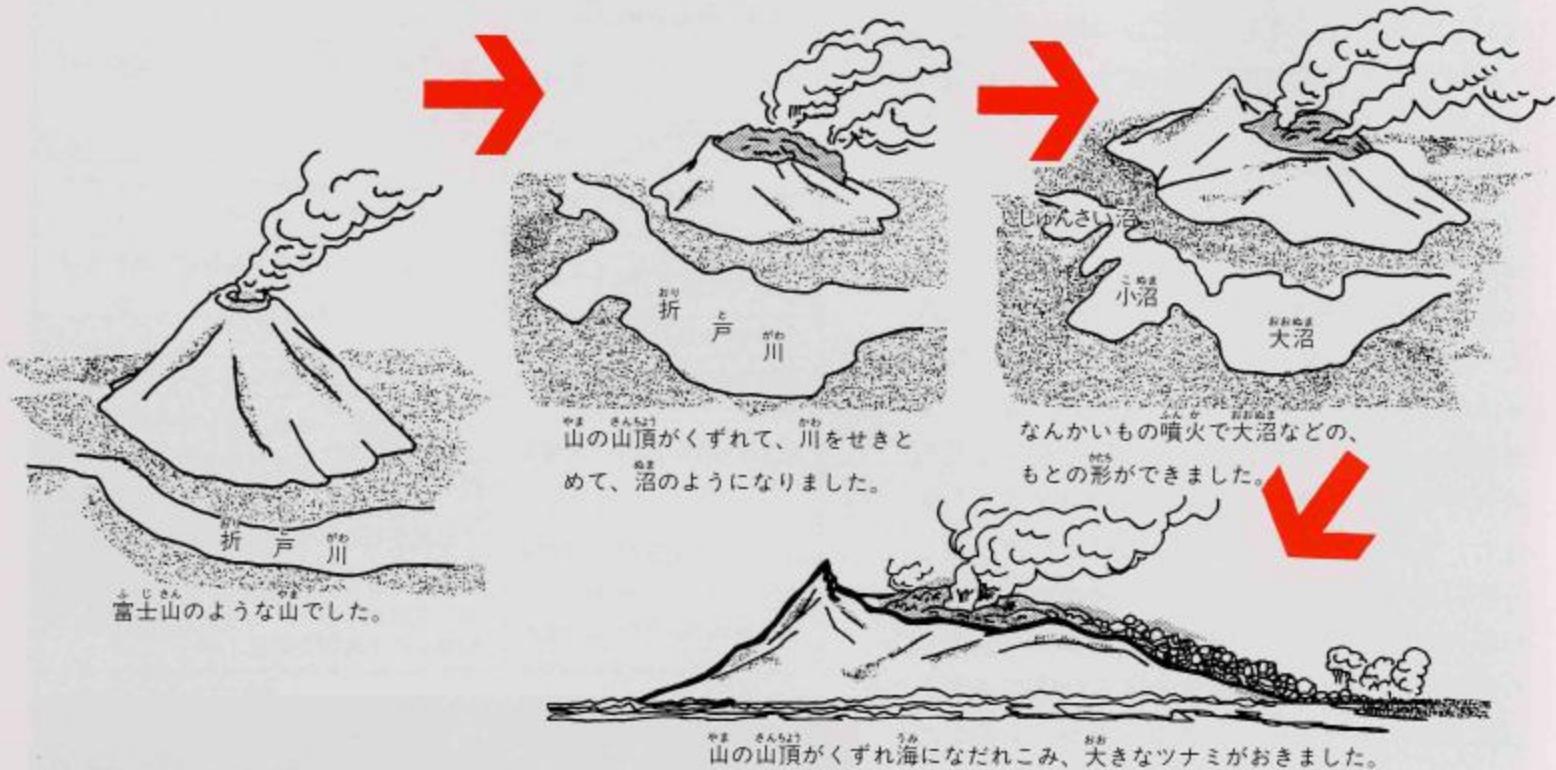
※1929(昭和4年)の大噴火の写真



鹿部

こま が たけ

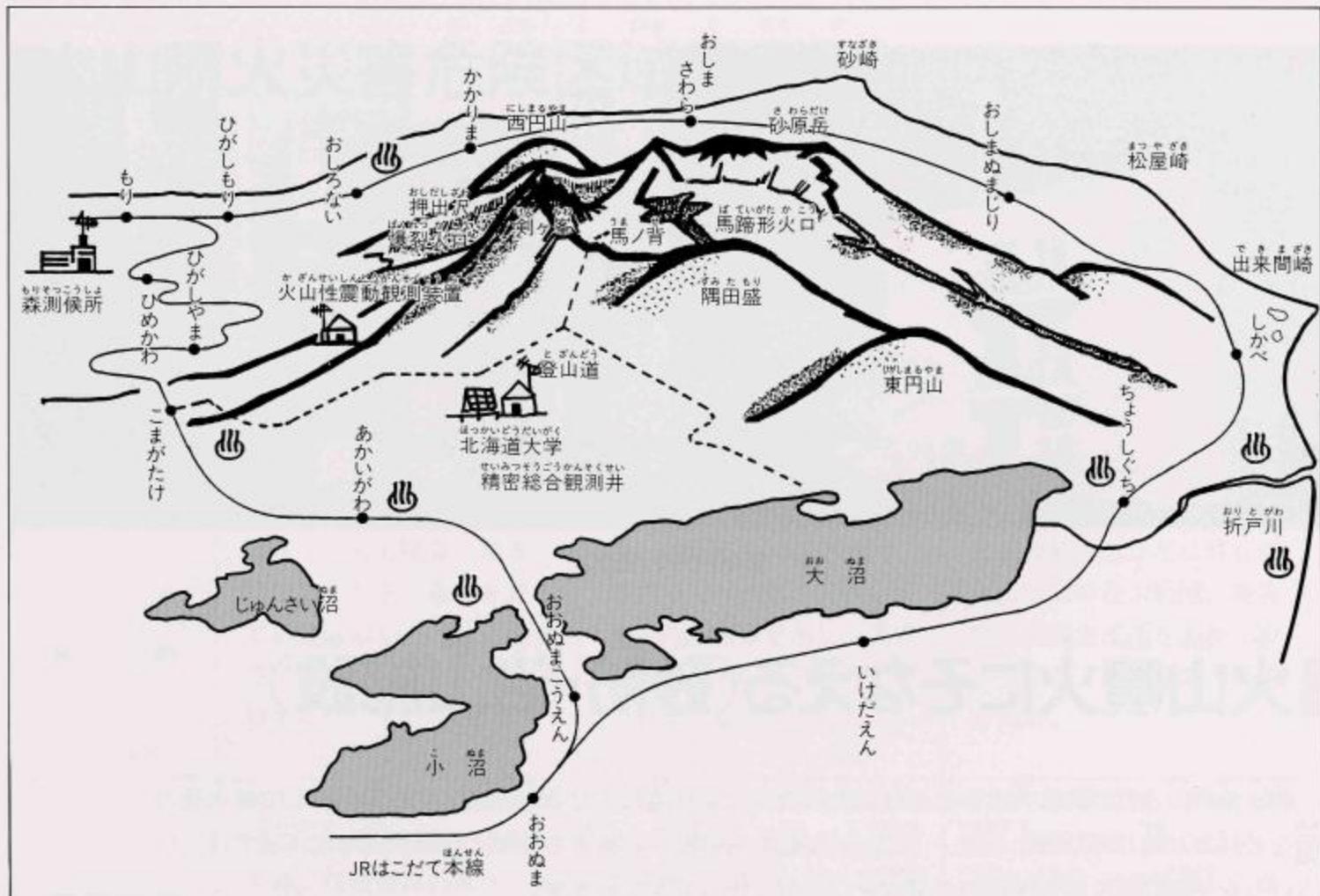
駒ヶ岳「火山のあゆみ」



おお ふん か ちい ふん か ちい

大きな噴火、小さな噴火がありました

噴火(ふんか)のあった時			大きさ	内 容
かんえい(寛永)	17年	1640年	だい 大ふんか	やまの山頂がくずれて海(噴火湾)になだれこんで、ツナミがおきて、約700人が死にました。
げんろく(元禄)	7年	1694年	ふんか	くわしくわかりません。
めいわ(明和)	2年	1765年	しょく 小ふんか	くわしくわかりません。
てんめい(天明)	4年	1784年	しょく 小ふんか	小さなふんかがありました。
あんせい(安政)	3年	1856年	だい 大ふんか	やまの山頂に大きな安政火口をつくった。 ふってきたかる石で2名、高い温度のかる石の流れによって、約20名が死にました。
めいじ(明治)	21年	1888年	しょく 小ふんか	安政火口のなかで小さなふんかがありました。
めいじ(明治)	38年	1905年	しょく 小ふんか	ふんかの後の雨により、どろの流れが畠をおそいました。
たいしょう(大正)8~13年		1919~24年	しょく 小ふんか	1919・1922・1923年に小さなふんかや活動がありました。
しょうわ(昭和)4年		1929年	だい 大ふんか	山のまわりの町に大きな被害をあたえました。 2名死にました。
しょうわ(昭和)10~13年		1935~38年	しょく 小ふんか	ふんかの写真を前のページで見てください。
しょうわ(昭和)17年		1942年	ちゅう 中ふんか	1935・1937・1938年に小さなふんかや活動がありました。
				中ふんかではいがふり、山頂に大きなわれ目ができました。



駒ヶ岳火山の観測(みはり)

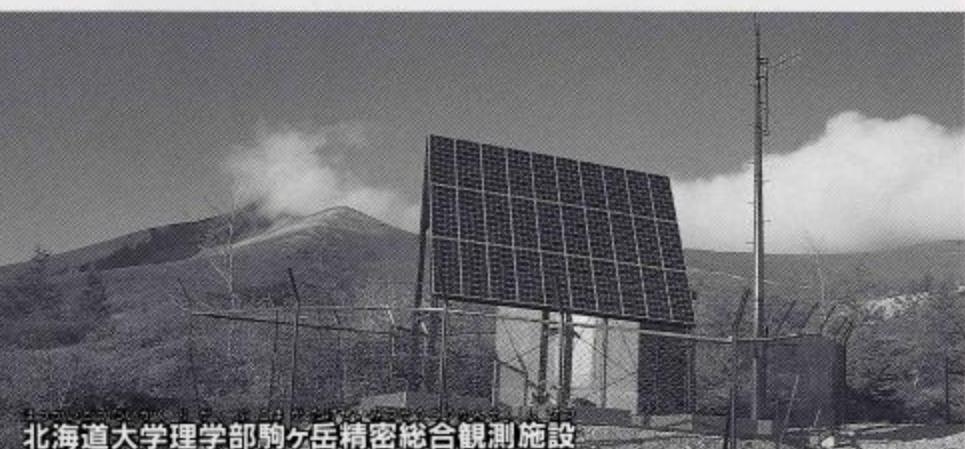
いざというときにそなえて駒ヶ岳の火山の観測は、つぎのとおりになっています。

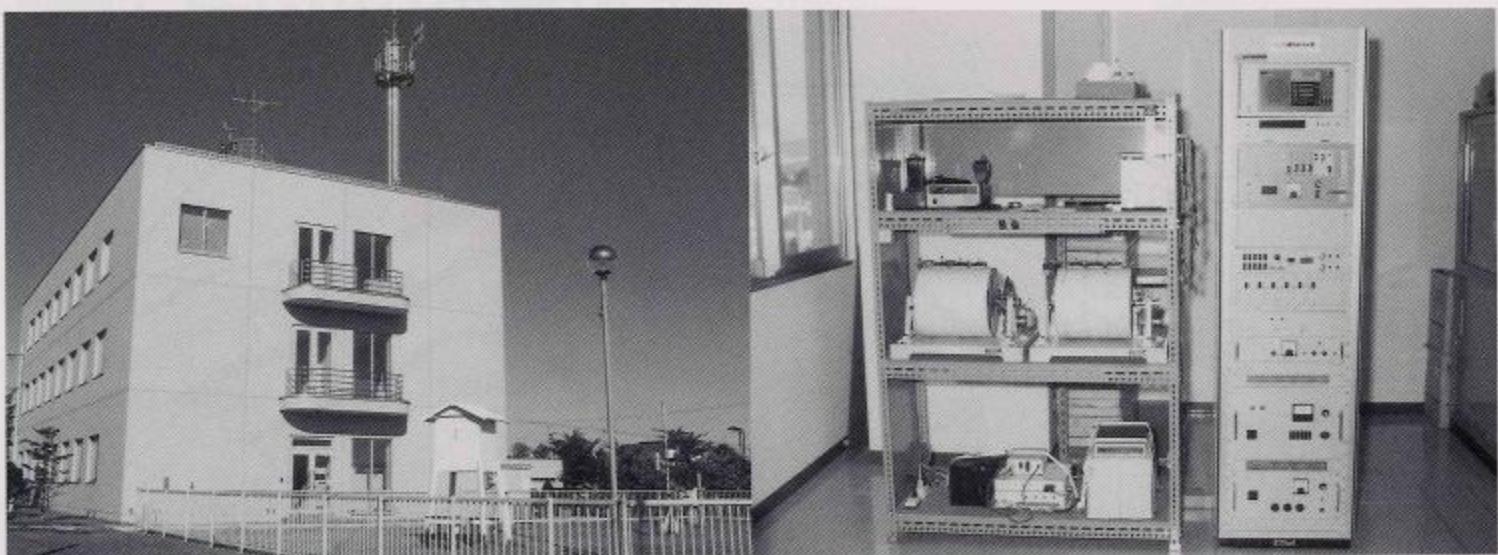
気象庁（森測候所、森町字上台町）は、山頂の西がわ山ろく4.1kmのところに、じしん計をおいて1日中、いつも観測をしています。

また、山頂で1年に3回、じっさいに、山にのぼって、その場所において、いろいろな観測や調査をしていますし、毎日、望遠鏡で山のけむりなどを観測しています。

また、北海道大学理学部の有珠火山観測所（有珠火山のふもと、虻田郡壮瞥町）は、駒ヶ岳の6合目ひろば付近に深さ500メーターの観測井をほり、地震計、ゆがみ計、傾斜計を井戸のそこに置き、精密な総合観測をしています。

また、このほかにも駒ヶ岳の山ろくに5つのじしん計をおいて、1日中いつも観測をしていますし、山頂や山ろくでいろいろな火山観測や調査を、くりかえしやっています。





森測候所と地震計
もりそつこうじよ じしんけい

火山噴火にそなえる(砂防・治山施設)

駒ヶ岳の山ろくにある大きな沢には、火山噴火により流れくだる火碎流・軽石流、そして噴火後の雨などにより流れくだる土石流・泥流から私たちの町への被害をふせぐため、国や北海道では、いろいろな工法により砂防・治山の施設をだんだん作ってきています。

この写真は、山ろくにあるこの施設の一部を撮ったものです。



かざんふんかさいがいきけんくいきよそくす

火山噴火災害危険区域予測図について

火山噴火災害対策に適切に対処するためには、過去の噴火状況、火山地形、火山地質、噴出物の組成などを調査研究をし、火山災害の事前評価を行い、これらを前提として将来起こり得る火山災害の種類、規模、影響範囲等を予測して、その危険度を適切に評価することが重要です。

「火山噴火災害危険区域予測図」は、このような火山災害による地域の危険度を評価し、それを目に見えるものとして表示する手段のひとつです。

火山噴火災害危険区域予測図（ハザードマップ）には、下記の表の3タイプがあります。

火山噴火災害危険区域予測図のタイプと特徴

	火山学的マップ	行政資料型マップ	住民啓発型マップ
目的	起りうる火山現象の確率、物理量などを、条件を変えて正確に示し、行政資料型住民啓発型マップの作成に資する。	火山現象ごとの影響範囲、防災施設の分布、災害応急対策の手順等を示し、災害予防、災害応急対策等の防災対策に資する。	住民や観光客などに対して火山現象の及ぶ範囲、発災時の避難方法等をわかりやすく示し、防災意識の高揚を図る。
表示内容	過去の災害履歴、各災害原因ごとの影響範囲、予測の条件、埋積物等の厚さ、到達時間毎	各災害要因ごとの影響範囲予測の条件、危険度分類、防災施設、公共施設（役所・病院、学校、道路）、情報伝達系統、指定地等。	災害の影響範囲、予測の条件、避難施設（集合場所、避難場所、避難経路）、情報収集の方法、非常携帯品噴火時の心構え。

駒ヶ岳では、平成6年度に、学識経験者、北海道等関係行政機関の職員、地元5町の職員等により構成される「駒ヶ岳火山噴火災害危険区域予測図作成のための検討会」を設置し、この3タイプのマップを作成しました。

この防災ハンドブックは、住民啓発型マップとして作成したもので、町民の皆様に火山災害の危険区域を正しく認識していただくために、今回作成した火山学的マップや行政資料型マップをやさしく、わかりやすく表現し直しました。いざという時の避難等に役立てるために、避難方法・場所等の情報や火山災害に対する備え等を内容としています。



駒ヶ岳の歴史時代の噴出物

駒ヶ岳は、先に「■火山噴火の記録」で説明しているとおり、1640年から現在までに少なくとも3回の大噴火を起こしています。駒ヶ岳周辺にはそれらの噴火で噴出したものが、地表に広く堆積しています。右の図は、これらの噴出物の分布を示したものです。

火碎流(軽石流)によって埋めつくされた範囲

	昭和4年（1929年）の火碎流
	安政3年（1856年）の火碎流
	寛永17年（1640年）の火碎流

火碎流の火山灰・軽石などで埋めつくされた範囲を示したもので、火碎サージはこれよりもやや広い範囲に広がったと思われます。

降下火碎物(降った火山灰・軽石)が厚く積もった範囲

10cm	昭和4年（1929年）の噴火で厚さ10cm以上火山灰・軽石が積もった範囲
1m	昭和4年（1929年）の噴火で厚さ1m以上火山灰・軽石が積もった範囲
10cm	寛永17年（1640年）の噴火で厚さ10cm以上火山灰・軽石が積もった範囲
1m	寛永17年（1640年）の噴火で厚さ1m以上火山灰・軽石が積もった範囲

これ以外にも、安政3年（1856年）などの噴火で大量の降下火碎物が駒ヶ岳の東斜面に積もっています。

泥流・土石流の流下

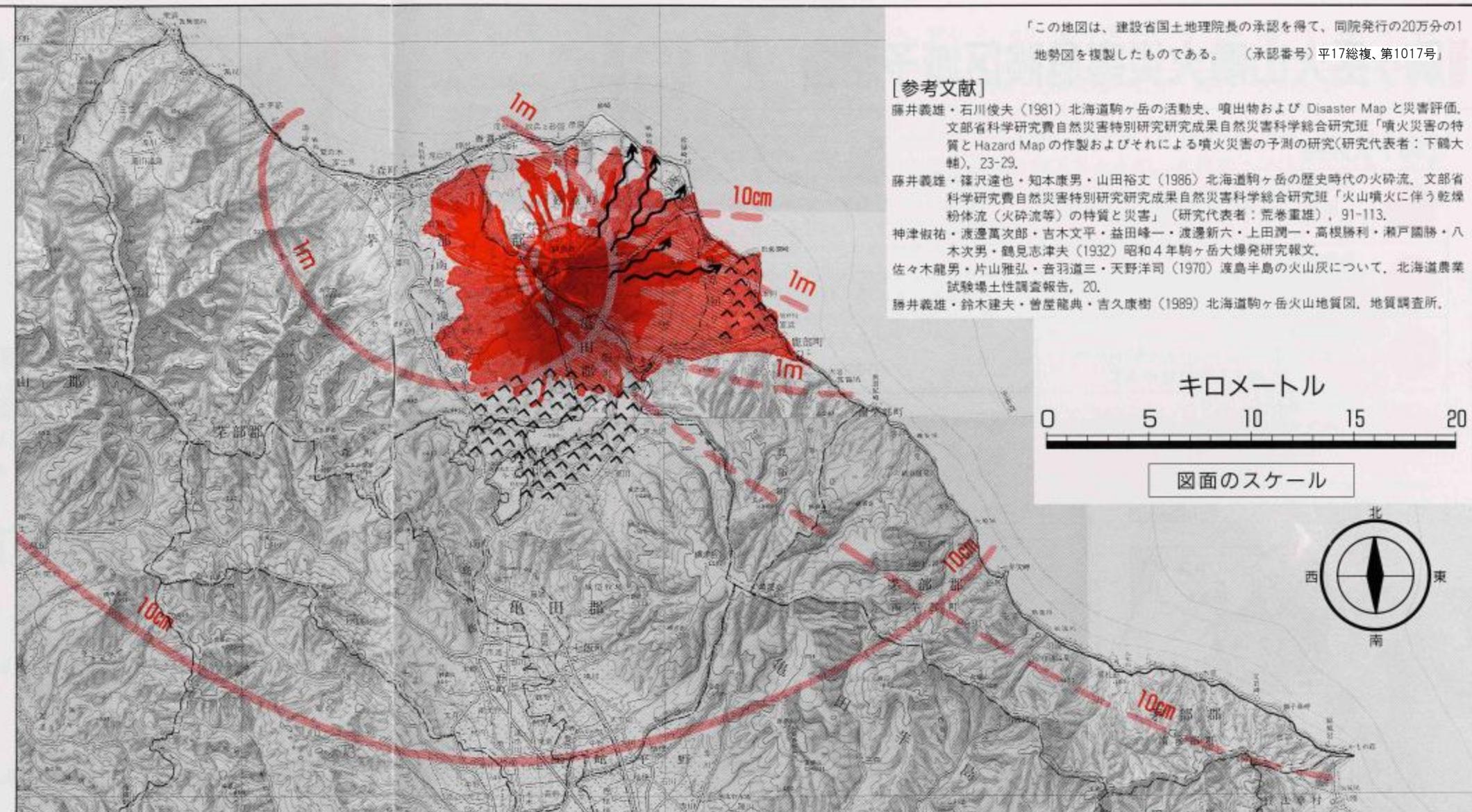
	昭和4年（1929年）噴火後の泥流・土石流
--	-----------------------

このほか、寛永17年（1640年）の噴火後に発生したものを見ると、駒ヶ岳の斜面では泥流・土石流が何回か発生しました。

岩屑なだれで埋めつくされた範囲

	寛永17年（1640年）の岩屑なだれ堆積物
--	-----------------------

寛永17年（1640年）の噴火では山頂部が大規模に崩れ、東及び南側の山麓に土砂・岩塊が堆積し、多くの小山を形成しました。記録にある噴火では、岩屑なだれはこの噴火の時にしか発生していません。



「この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分の1地勢図を複製したものである。（承認番号）平17総復、第1017号」

参考文献

- 藤井義雄・石川俊夫（1981）北海道駒ヶ岳の活動史、噴出物および Disaster Map と災害評価、文部省科学研究費自然災害特別研究研究成果自然災害科学総合研究班「噴火災害の特質と Hazard Map の作製およびそれによる噴火災害の予測の研究」（研究代表者：下鶴大輔），23-29。
- 藤井義雄・篠沢達也・知本康男・山田裕丈（1986）北海道駒ヶ岳の歴史時代の火碎流、文部省科学研究費自然災害特別研究研究成果自然災害科学総合研究班「火山噴火に伴う乾燥粉体流（火碎流等）の特質と災害」（研究代表者：荒巻重雄），91-113。
- 神津淑祐・渡邊萬次郎・吉木文平・益田峰一・渡邊新六・上田潤一・高根勝利・瀬戸國勝・八木次男・鶴見志津夫（1932）昭和4年駒ヶ岳大爆発研究報文。
- 佐々木龍男・片山雅弘・苔羽道三・天野洋司（1970）渡島半島の火山灰について、北海道農業試験場土性調査報告，20。
- 藤井義雄・鈴木建夫・曾屋龍典・吉久康樹（1989）北海道駒ヶ岳火山地質図、地質調査所。

駒ヶ岳火山災害のミニ用語辞典

- **火碎流** 火山から噴出された高温の火山灰・軽石・岩片・火山ガスなどが、斜面を急速に流下する現象。温度は数百°Cに達する。駒ヶ岳では、軽石が多く含まれるため、**軽石流**と呼ぶことが多い。
- **火碎サージ** 火碎流より軽石・岩片が少なく、高速で高温の砂嵐のような現象。
- **泥流・土石流** 土砂・岩塊などが、水と混ざりあって、高速で谷を流れ下る現象。谷の出口では氾濫を起こす。一般には大雨の時に発生するが、火山噴火で火山灰が積もったときには、多少の雨でも発生する。これを**火山泥流**と呼ぶこともある。また、冠雪期には、噴火によって雪が一気に溶けて、泥流が発生することもある。これを**融雪泥流**と呼ぶ。
- **火山灰** 火口から放出される細粒の噴出物で、直径2mm以下のもの。
- **軽石** 火口から放出される多孔質の噴出物。
- **カルデラ** 大規模な噴火によって、山頂部が吹き飛ばされたり、陥没したりしてできる山頂部の凹地（ただし、直径約2km以上のもの）。駒ヶ岳では、寛永17年（1640年）の噴火によって、山頂部が東方向へ崩落し、東側に直径約2kmの馬蹄形の火口ができた。これを**馬蹄形カルデラ**と呼ぶこともある。
- **岩屑なだれ** 火山噴火や地震動によって、山体斜面が大規模に崩落する現象。駒ヶ岳では、寛永17年（1640年）の噴火によって発生し、崩落した土砂・岩塊は海にまで達し、津波が発生して、内浦湾沿岸で700人余りが溺死した。
- **噴煙** 火山ガス・火山灰・軽石などが火口から噴出し生ずる煙。噴火の際には、火口の上空に**噴煙柱**が形成される。
- **噴氣** 火口や山腹の割れ目から立ち上る火山ガスや水蒸気など。水蒸気が水滴となって白い煙のように見えることが多い。
- **空振** 火山の爆発で起きた空気の振動。空振によって窓ガラスが破損することもある。
- **マグマ** 地下に存在する岩石が融けたもの。高温。これが、地表に現れたものを溶岩と呼ぶ。
- **溶岩** マグマが地表に現れたもの。冷えて固まったものも溶岩と呼ぶ。溶岩の粘性（粘り気）が大きい場合には流れ出ないで**溶岩ドーム**を形成する。逆に粘性が小さい場合には**溶岩流**が生ずる。
- **溶岩ドーム（溶岩円頂丘）** 粘性の大きい溶岩が噴火口上に盛り上がってドーム状の山体を形成したもの。駒ヶ岳では安政3年（1856年）の噴火で小型の溶岩ドームが形成されたが、その後の噴火で消失した。

駒ヶ岳火山噴火災害危険区域予測図

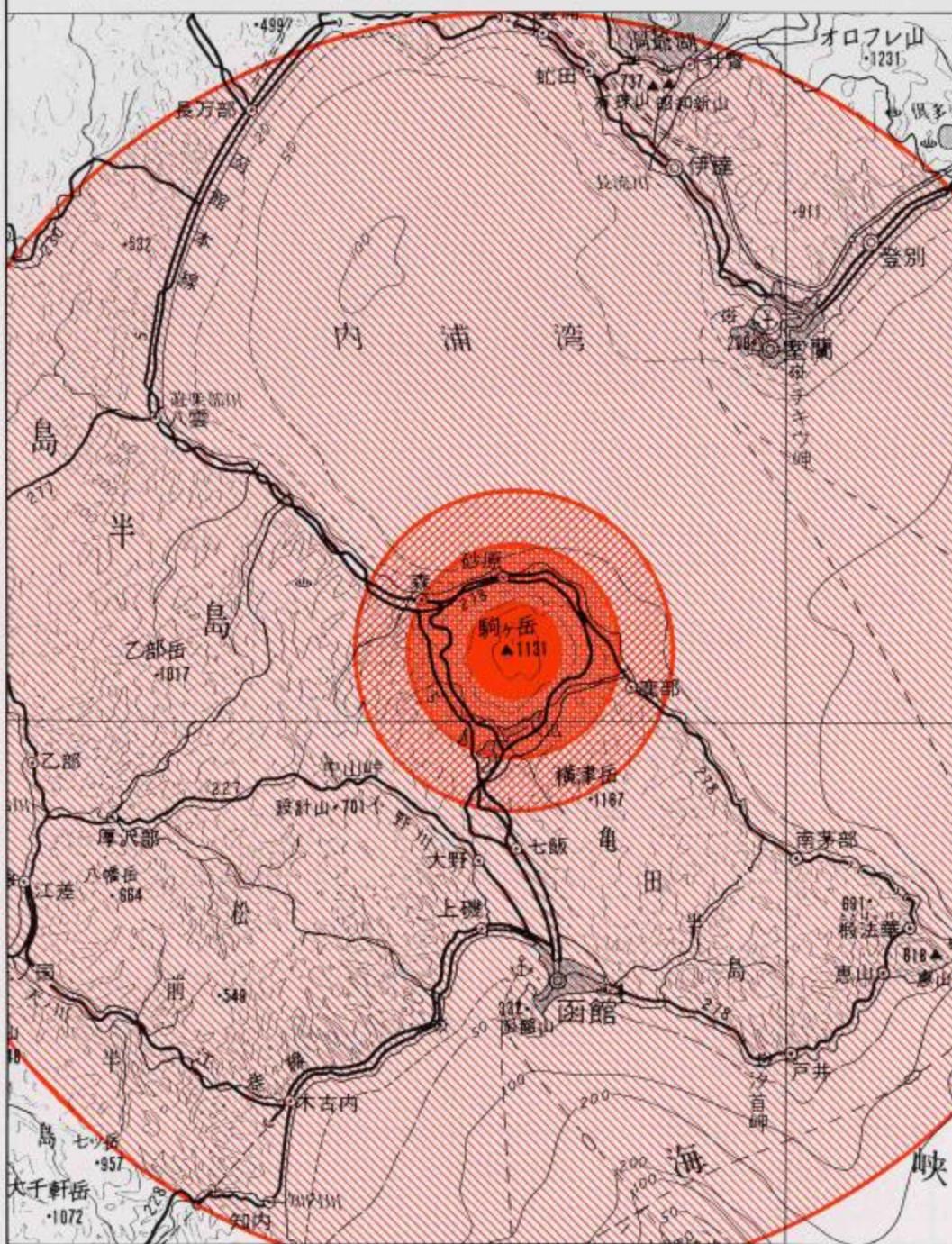
①降下火碎物

	危険区域A 直径1.5mの岩塊がまれに落下する
	危険区域B 風下方向では、直径15cmの岩片がまれに飛来する
	危険区域C 風下方向では、火山灰や軽石が厚さ1m以上積もる可能性がある
	危険区域D 風下方向では、火山灰や軽石が厚さ10cm以上積もる可能性がある

大規模な噴火でも火碎物（火山岩塊・岩片・軽石・火山灰など）は下記の内すべてに降るわけではありません。上空の風は、1年を通じて西から東へ吹くことが多く、火山灰・軽石は駒ヶ岳の東側に降る確率が高い。風下方向では噴火が始まって10分から数十分のうちに灰などが降り始めます。

0 10 20m

「この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の100万分の1日本を複製したものである。（承認番号）平17総復、第1017号」



駒ヶ岳が再び大規模な噴火場合を想定して、過去の噴火形・気象などの条件から、危険区域を予測しました。

駒ヶ岳で注意すべき火山災害です。

②火碎流（軽石流）、火碎サージ

	危険区域A 中小規模の達する可能
	危険区域B 大規模な噴石等に埋め
	危険区域C 大規模な噴て災害が発

火碎流は噴火開始後、とが予想されます。
火碎流は斜面を流れることが多い。
また、火碎流が海に流爆発を起こすことがあります。

【駒ヶ岳で注意すべき火山災害】

を起こした
の様子や地
険区域を予
害は右の4

①降下火碎物

空中へ放出された火山岩塊・岩片・軽石・火山灰などが地表に降ってくるもの。

火碎流は、高温の軽石・火山灰・火山ガスなどからなる混合物が火口付近から斜面を流下するもの。火碎サージはガスが多く高速。

③泥流・土石流

火山灰で覆われた所に雨が降ると発生する場合がある。また、積雪期に火碎流などの熱で一気に融雪し発生する場合がある。

④岩屑なだれ

火山体の斜面の一部が大規模に崩落する現象。

火碎サージ

噴火でも火碎サージが到
性がある

火では火碎流によって軽
つくされる可能性がある

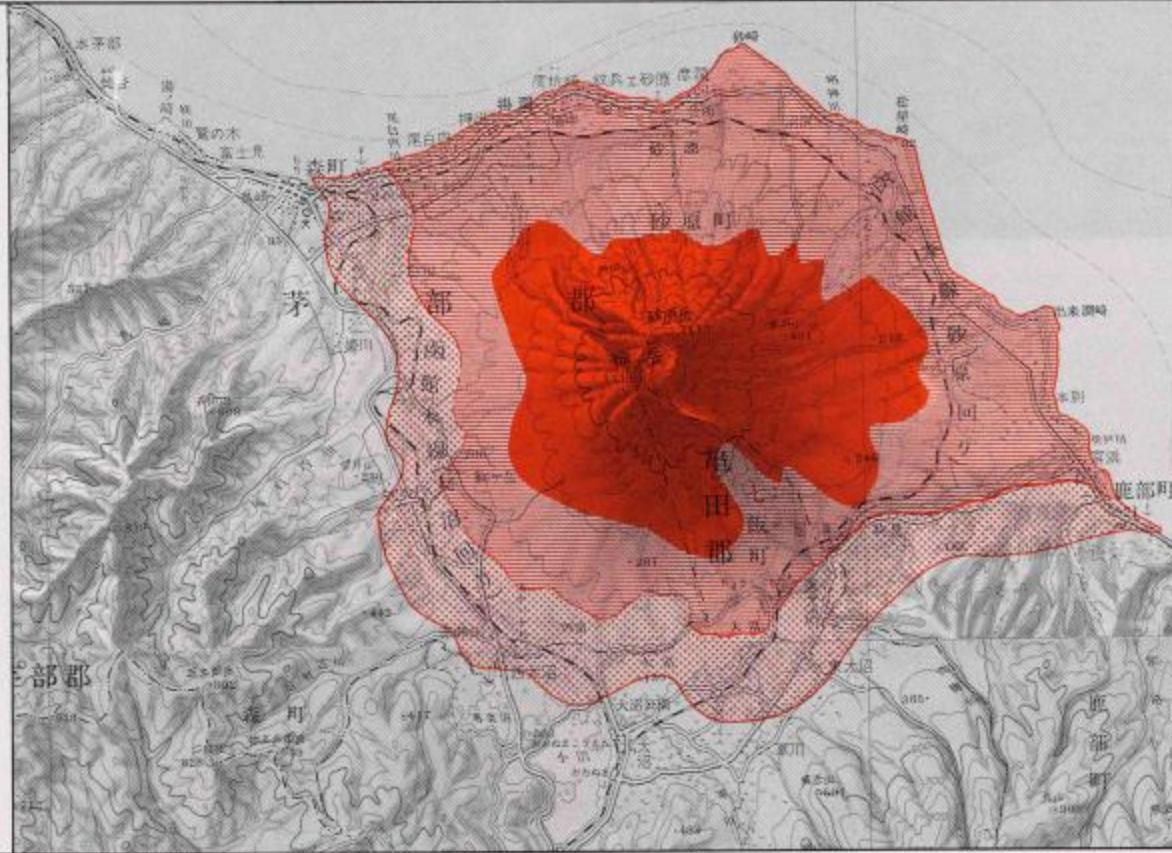
火では火碎サージによっ
生する可能性がある

数時間以内に発生するこ

とき、谷沿いに流下する

入すると、そこで新たに
ます。

0 1 2 3 4 5km



「この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分の1地勢図を複製したものである。（承認番号）平17総復、第1017号」

③泥流・土石流

	危険区域A 噴火後の降 する可能
	危険区域B 噴火後の降 する可能
	危険区域C 積雪期の噴 て浸水する

火山灰が降り積もった
流・土石流が発生します。
積雪期には、降雨がな
噴火後数時間以内に発生
泥流・土石流は主に谷
氾濫する場合が多くあり

④岩屑なだれ

	岩屑なだれが (破線の内側)
--	-------------------

岩屑なだれが発生する
した場合でもある限られ
の影響が全域に及ぶこと
大規模な噴火があった
すべてが危険なのではあ

雨で泥流・土石流が発生
が大きい

雨で泥流・土石流が発生
がある

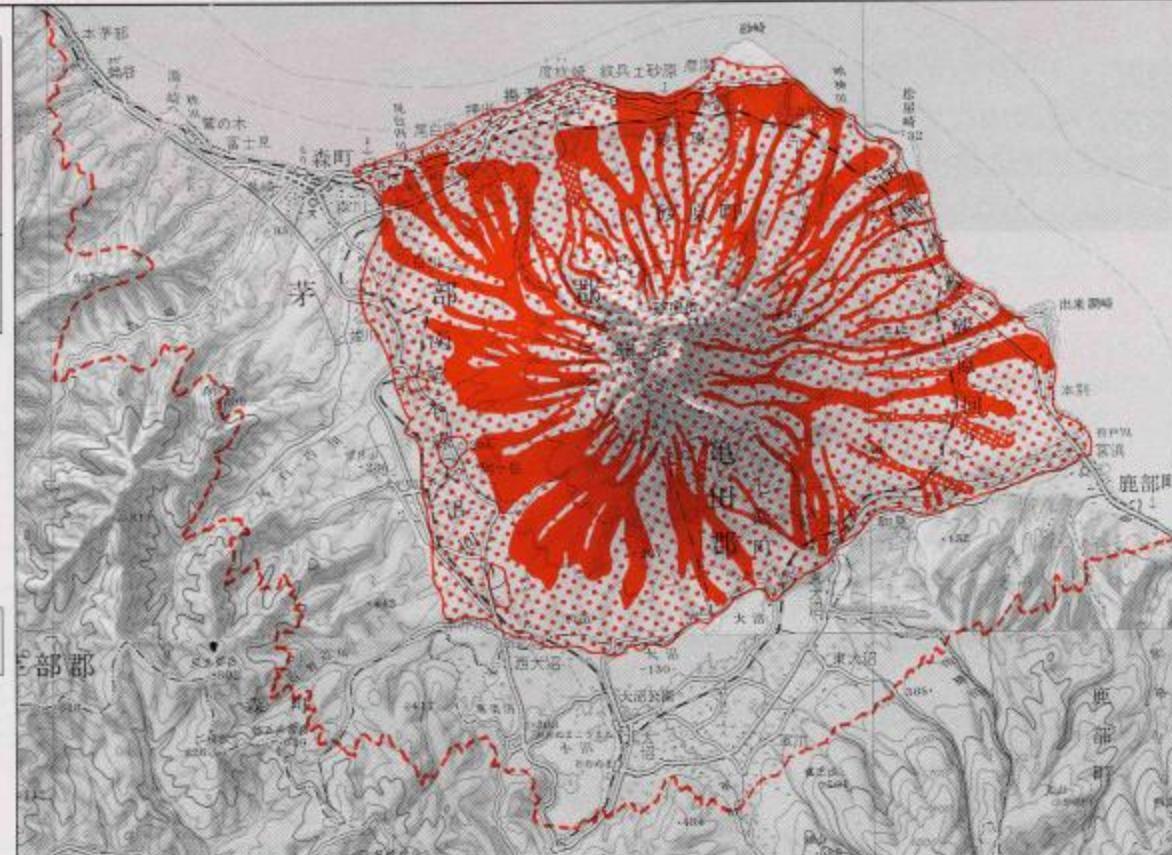
火で発生する泥流によ
つ可能性がある

ところに降雨があると泥
も

くても、泥流・土石流が
することも考えられます。
部を流れ下り、平坦地で
ます。

到達する可能性のある区域
の区域)

可能性は低い。もし発生
た方向で起こるため、そ
はありません。
場合でもこの区域内
りません。



避 難

1 避難誘導者

避難誘導は、町災害対策本部員、消防署員、消防団員及び警察官その他のことについての指示を受けた人が協力し実施します。



2 避難順位

避難をさせる場合は、老人、幼児、傷病者、身障者及び婦人を優先的に避難させます。



3 避難方法

避難には、3つの方法がありますが、町災害対策本部長が、噴火の規模、避難開始の時期、交通状況等を考慮し、状況に応じて適切な避難方法を指示します。

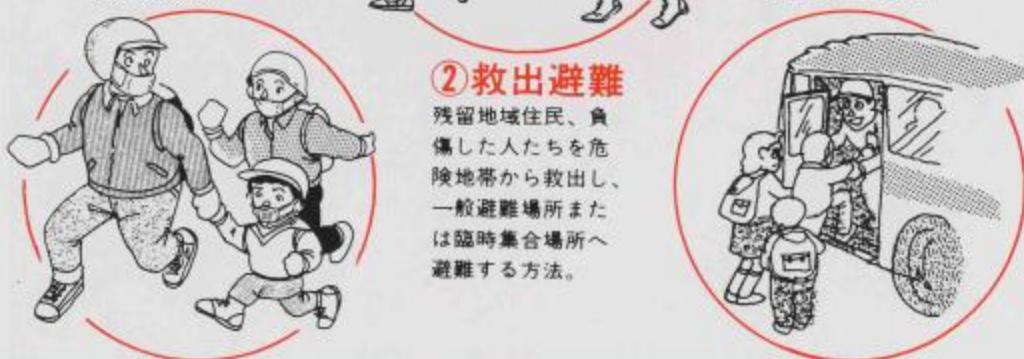
①自力避難

徒歩等により、住民が自力で、一般避難場所または臨時集合場所へ避難する方法。



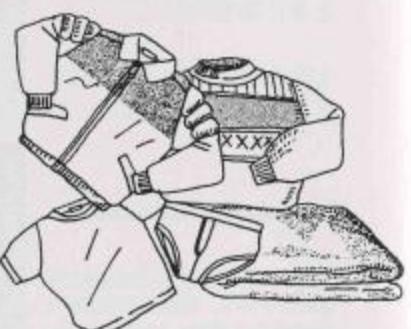
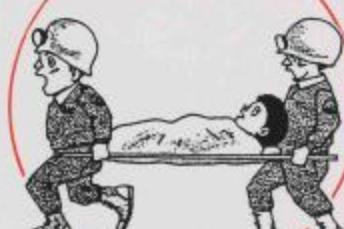
②救出避難

残留地域住民、負傷した人たちを危険地帯から救出し、一般避難場所または臨時集合場所へ避難する方法。

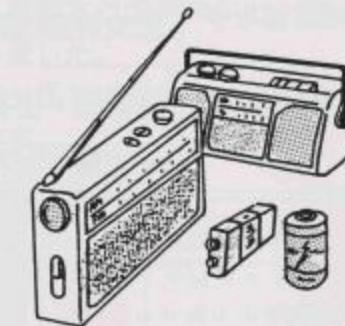


③集団避難

一般避難場所または臨時集合場所に集合した人を、災害対策輸送車両で集団的により安全な避難場所へ避難させる方法。



●衣類
セーター、
ジャンバー
類（夏でも
必要）、下
着1組、毛布など



●携帯ラジオ
(予備電池も忘れずに)

これが基本です あまり欲ばると安全な避難に支障をきたすので荷物は最小限に。男性の場合で最大15kg、女性で10kg程度がひとつの目安です。

非常持出品はこれで十分

防じん眼鏡・マスク・ヘルメット
(防災ズキン)

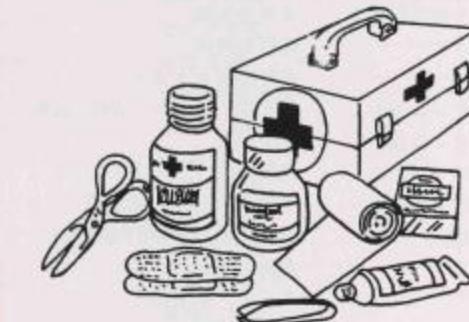


底の平らな
丈夫なくつ

長そでの上着
厚手の手袋
綿スボン



●その他
(マッチやライターなどの発火用具、
ローソク、十徳ナイフ、ビニールシート、コップ、缶切り、大小のポリ袋など)



●応急医薬品
(目薬、傷薬、胃腸薬、脱脂綿、
絆創膏、包帯、生理用品、クレオソート丸、抗生物質など)

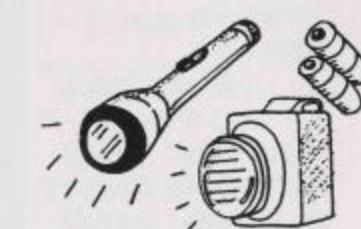
みんなの 避難について

避難する場合のみんなの心得

- ①戸締りに十分注意する。
- ②火の元に注意し、ガスの元栓を閉め、火災が発生しないようにする。
- ③携帯品は、限られた必要なものだけとする。
- ④服装は軽装で、頭巾・ヘルメットなどを着用し、防じん眼鏡・マスク・防寒用具などを携行する。
- ⑤行動は誘導者の指示に従い、うわさによる軽はずみな行動はやめよう。



●貴重品類（印鑑、預金通帳、株券、現金など）



●懐中電灯(予備電池も)



●食料品・飲料水
(乾パン、缶づめ、ビスケット、チョコレート、チーズ、携帯用飲料水など)

追加1 赤ちゃんがいる場合



●ほ乳瓶

●ミルク
milk for Baby
●紙おむつ

追加2 お年寄りがいる場合



●看護用品

●常備薬
●おむつ

追加3 あれば便利なもの



●マスク

●防じん眼鏡
●さらし

ぼくたち、わたしたちの「ひなん 場所」

もり町

一般避難場所

避難地域又は地区名	避 難 場 所	収容可能人員
赤井川・駒ヶ岳地区	赤井川小学校 赤井川特別母と子の家 大規模年金保養基地グリーンピア大沼 駒ヶ岳小学校 駒ヶ岳特別母と子の家	350 70 2,000 470 75
尾白内町・白川地区	尾白内小学校 尾白内保育所 尾白内生活館 尾白内南部生活改善センター 森町農業集落センター	660 150 80 50 60
港町・東森町地区	東森生活館 港町保育所 森町漁村センター	60 80 110
森 御幸町・清澄町・森川町・常盤町・新川町・上台町・本町・鳥崎町・姫川地区	森町福祉センター・森町公民館 森小学校 森保育所 森青少年会館・柔道場 妹の家(森町身体障害者福祉会館) 森幼稚園 みどりヶ丘会館 森高等学校 森町民体育館 森川児童館 森町基幹集落センター 森川・姫川生活改善センター 森中学校 新川保育所 常盤福祉会館 新川老人いこいの家 鳥崎生活改善センター 姫川小学校 姫川福祉会館	980 2,800 150 200 80 200 140 2,500 1,000 50 360 80 2,600 80 80 70 85 80 40
町 鷺の木町・富士見町地区	鷺ノ木小学校 鷺ノ木保育所 鷺ノ木町生活館 鷺ノ木史跡資料館 法輪寺 靈鷲院	340 55 80 40 100 165
姥谷町・本茅部町地区	石谷小学校 姥谷生活館 本茅部福祉会館	450 85 60
石倉町地区	石倉小学校 石倉生活館 石倉西部福祉館 下濁川生活改善センター	500 50 50 80
濁川地区	濁川小学校 濁川生活改善センター 濁川地区会館	400 70 50
三岱地区	三岱地区会館	60
臨時避難場所		
青葉ヶ丘公園 オニウシ公園	鷺ノ木小学校グランド 姫川小学校グランド	

森町

森町民野球場	駒ヶ岳小学校グランド
森中学校グランド	赤井川小学校グランド
田森中学校グランド	石谷小学校グランド
森小学校グランド	石倉小学校グランド
尾白内小学校グランド	濁川小学校グランド
尾白内運動広場	

さわら町

一般避難場所

避難地区又は地区名	避 難 場 所	収容可能人員
二ツ山・沼尻地区	沼尻小学校 沼尻コミュニティーセンター	650 290
彦調地区	彦調集落センター 定規寺	350 300
会所町地区	郷土資料館 神社社務所 禪昌寺	470 360 310
四軒町地区	砂原小学校 母と子の家	1,020 510
紋兵エ砂原地区	砂原中学校 紋兵衛砂原会館 さわら幼稚園 砂原町民会館 ふるさと交流館	2,620 580 290 820 500
掛潤度杭崎地区	児童館 慈光寺 称名寺 掛潤小学校	470 250 300 950
場中地区	婦人会館	480
小石崎拠出地区	生活館	370
臨時集合場所		
沼尻小学校グランド 砂原小学校グランド 砂原中学校グランド	砂原町民グランド さわら幼稚園グランド 掛潤小学校グランド	

砂原町

しかべ町

一般避難所

避難地区又は地区名	避 難 場 所	収容可能人員
大岩地区	大岩生活改善センター リバーポルテラジ館・リバーランド館	48 280
鹿部地区	シシベ生活館 鹿部会館 鹿部小学校 老人憩の家	57 91 1,000 64
宮浜地区	宮浜生活館 宮浜児童館 鹿部青少年会館 鹿部中央公民館 鹿部幼稚園 鹿部中学校 鹿部総合体育館	50 97 250 480 260 870 1,000

(しゅうごう)

一般避難場所及び臨時集合場所

お父さん、お母さんに「ひなん場所」をおしえてもらってください。

鹿部町

本別・駒見地区

本別生活改善センター	69
本別会館	73

出来澗地区	52
-------	----

臨時集合場所

鹿部小学校グランド	鹿部町山村広場グランド
鹿部中学校グランド	鹿部総合体育館

みなみかやべ町

一般避難場所

避難地区又は地区名	避 難 場 所	収容可能人員
古部地区	古部小学校 古部児童館	350 71
木直地区	白井川会館 木直小学校 木直保育園 木直基幹集落センター ポン木直会館	50 443 127 159 89
尾札部地区	見日生活改善センター 尾札部中学校 黒鷺会館 尾札部母と子の家 尾札部保育園 磨光小学校	91 847 67 126 198 954
川汲地区	川汲母と子の家 町民の庭 町民運動公園	110 588 3,685
安浦地区	漁村センター 青少年会館 母子健康センター	107 189 34
白尻地区	白尻小学校 白尻保育園 スポーツセンター 白尻生活改善センター	636 190 658 216
豊崎地区	白尻中学校	599
大船地区	大船保育園 町民保養センター 大船小学校 大船母と子の家	108 169 440 146
双見・岩戸地区	双見生活館 磯谷生活改善センター 磯谷小学校 望路会館	49 85 367 60

臨時集合場所

古部小学校グランド	白尻小学校グランド
木直小学校グランド	白尻中学校グランド
尾札部中学校グランド	大船小学校グランド
磯谷小学校	磯谷小学校グランド
望路会館	町民運動公園

ななえ町

一般避難場所

避難地域又は地区名	避 難 場 所	収容可能人員
大川地区	農村勤労福祉センター 大川美園振興会館 大中山公民館	130 60 700
大中山地区	大中山小学校 大中山中学校 湯出川会館	1,200 1,800 65
中島地区	中島会館	25
豊田地区	豊田会館	30
鶴野地区	鶴野会館 鶴野小学校	40 180
緑町地区	緑町児童館	100
鳴川町地区	七飯果樹センター	50
本町地区	本町振興会館 本町見晴会館 スポーツセンター 七飯公民館 七重小学校 七飯中学校	110 50 600 450 1,000 1,800
桜町地区	桜町振興会館	60
藤城・上藤城地区	藤城公民館 藤城小学校	110 600
蛭下・仁山地区	蛭下公民館 蛭下小学校	110 650
大沼町地区	南北海道大沼婦人会館 大沼小学校 大沼公民館	380 600 90
軍川・上軍川地区	吉野山会館 大沼中学校 軍川小学校 軍川振興会館	35 1,500 540 100
東大沼地区	東大沼地区生活館 東大沼小学校 東大沼駅前会館	50 300 15
西大沼地区	西大沼老人憩の家 西大沼小学校	31 220
臨時集合場所		
大中山小学校グランド	蛭下小学校グランド	
大中山中学校グランド	大沼小学校グランド	
鶴野小学校グランド	大沼中学校グランド	
七重小学校グランド	軍川小学校グランド	
七飯中学校グランド	東大沼小学校グランド	
藤城小学校グランド	西大沼小学校グランド	

わが家の避難場所

避 難 場 所	備 考

●いざという時のため、わが家の避難場所を記入しておいてください。

1. 山にかわったことがあつたら連絡してください!!

駒ヶ岳の火山活動に関して異常現象を発見した人は、そのことを電話等の早い方法で各町役場または警察署・警察官駐在所及び各町消防本部(署)・消防分団・森測候所に連絡してください。

名 称	電 話 番 号	名 称	電 話 番 号
森 町 役 場	01374-2-2181	南茅部町役場	01372-2-5111
砂 原 町 役 場	01374-8-3111	七 飯 町 役 場	0138-65-2511
鹿 部 町 役 場	01372-7-2111	森 测 候 所	01374-2-2236

異常現象



湧水の変化

湧水量や濁りの変化
新しい湧水
湧水の温度の変化
臭いの変化



噴気の変化

新しい噴気や噴煙
噴気量や色の変化
噴気口の拡大
臭いの変化



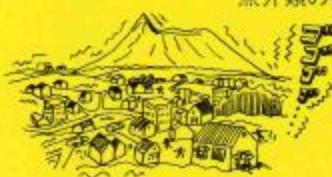
湖・川の変化

変色・濁り
水温の上昇
大量の水泡
臭いの変化
魚介類の死滅



地形の変化

土地の隆起・沈降
地割れや山崩



地震の頻発

鳴動・地鳴り

2. 気象庁の火山情報に、注意しましょう!!

気象庁は火山に異常現象や噴火活動があったとき、直ちに「火山情報」を発表して、注意警戒を呼びかけます。また、駒ヶ岳を含む国内の19の活動的な火山について、火山の活動状況を定期的に発表しています。

きんきゅう か ざんじょうほう 緊急火山情報	生命、身体にかかる火山活動が発生した場合に随時発表します。
りんじ か ざんじょうほう 臨時火山情報	火山活動に異常が発生し、注意が必要なときに随時発表します。

か ざんかんそくじょうほう 火山観測情報	緊急火山情報、臨時火山情報を補うなど、火山活動の状況を定期または臨時にきめ細かく発表します。
ていき か ざんじょうほう 定期火山情報	駒ヶ岳などの常時観測を行っている活動的な火山について、火山活動の状況を定期的に発表します。

このハンドブックは、駒ヶ岳の火山噴火災害に適切に対処することを目的として、駒ヶ岳周辺の森町・砂原町・鹿部町・南茅部町・七飯町の5町で構成している駒ヶ岳火山防災会議協議会が、国土庁の補助事業により作成し、いざという時に備え、全戸に配布するものです。

「家族の皆様のわかりやすい場所に保存して下さい。又、お子様にもみせてやってください。」

駒ヶ岳火山防災会議協議会事務局

北海道茅部郡森町字御幸町144-1／森町役場(企画課): TEL(01374)2-2181・FAX(01374)2-3244